

令和6年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

領域番号	21A301	領域略称名	適応回路センサス
研究領域名	神経回路センサスに基づく適応機能の構築と遷移バイオメカニズム		
領域代表者名 (所属等)	磯村 宜和 (東京医科歯科大学大学・大学院医歯学総合研究科・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

本研究領域は、様々な階層の先端技術を導入し領域内で共有しながら研究を進めている点の特徴であり、数理・人間工学関係者も含めた学際的連携の進める体制が整備されている。遺伝子解析支援、各種ハンズオンなどの技術支援が充実していることも評価できる。ヒト病的状態に関する公募班があり、ヒトへの外挿も想定している。すでに多くの成果が出ており、期待通りの進展が認められている。

一方で、遺伝子から細胞、細胞から回路形成、回路形成から行動など比較的近い階層をつなぐ研究が多く、現時点ではまだ個別の研究の集合体として、従来型の研究の延長上にある段階と考えられる。今後、研究領域全体でこれらの先端技術共有や学際的連携を更に加速させ、機能的かつ本質的要素回路を抽出し、遺伝子発現から行動表現までにいたる大きく階層を超える成果につなげ、適応回路センサスに関する共通動作原理の解明など、新たな学問体系の確立へと発展することを期待する。